立命館大学人間科学研究所
2026年度年次総会 シンポジウム

2011年3月11日の東日本大震災を受けて、「被災と復興の証人になる」ことを期して起ち上げた立命館大学の「東日本・家族応援プロジェクト」は15年余りの歳月を経た。今回のシンポジウムでは、これまで東北4県で実施してきたプロジェクトの成果を総括するとともに、これからも続いていく「福島フィールドワーク」の報告と、石井正己先生のご講演を通して、これからの課題と展望を議論したい。

東日本・家族応援プロジェクト
15年の軌跡と
福島フィールドワークのこれから

2026年
12/20（日）

参加費無料

シンポジウム

13:00～17:00
（受付開始12:45）

会場：立命館大学
大阪いばらきキャンパス
C棟2F C273 ＋ Zoom

定員：会場100名
事前申込制（先着順）

ポスターセッション

13:30～15:15

会場：立命館大学
大阪いばらきキャンパス
B棟5F クロノトポス
（産学交流ラウンジ）

申込締切日：2026年12月18日（金）正午
（※定員になり次第受付を締め切ります）

お問合せ先：立命館大学 人間科学研究所
TEL：075-465-8358　ningen@st.ritsumei.ac.jp

ポスターセッションについて

13:30～15:15にかけて、B棟5F クロノトポス（産学交流ラウンジ）にてポスターセッションを開催します。人間科学に関する基礎研究並びに応用、実践、臨床研究に寄与する内容の発表の場となります。研究所の活動や様々な領域にわたる人間科学研究の成果を皆さまにご覧いただき、議論の場としていただければ幸いです。

共催：立命館大学総合心理学部・立命館大学大学院人間科学研究科・立命館大学人間科学研究所

[program]

総合司会：安田裕子（立命館大学総合心理学部 教授）

13:00　開会

第1部
13:00
～14:20

活動と学びの報告

学部・研究科長挨拶： 矢藤優子（立命館大学総合心理学部 / 大学院人間科学研究科 教授）

所長挨拶・趣旨説明： 村本邦子
（立命館大学大学院人間科学研究科 教授 / 人間科学研究所 所長）

報告1 東北4県15年の振り返り

立命館大学大学院 人間科学研究科 博士課程後期課程生

報告2 福島フィールドワーク報告

立命館大学大学院 人間科学研究科 博士課程前期課程生、
総合心理学部学部生

報告3 高校生たちの活動報告

自由の森学園高等学校選択講座「東北と復興」メンバーの高校生
内田一樹氏（立命館大学大学院 人間科学研究科 博士課程後期課程、
自由の森学園中学高等学校 社会科教諭）

14:20：休憩

※ 13：30 ～ 15：15　ポスターセッション
B棟5F クロノトポス（産学交流ラウンジ）

第2部
15:00
～16:00

講　演

災害の復興をどう考えるか
～立命館大学東日本・家族応援プロジェクトの実践を受けて～

講師：石井正己氏（東京学芸大学 名誉教授）



国文学・民俗学を専門とし、昔話や民話、口承文芸の研究を続ける。東日本大震災以降は、震災の記憶の継承や地域復興における語りの役割について精力的に発信している。著書に『文豪たちの関東大震災体験記』『感染症文学論序説』『震災を語り継ぐ』など多数。

16:00：休憩

第3部
16:10
～17:00

交　流　会

司会：鵜野祐介　（立命館大学文学部 教授）

コメンテーター：

宮城県 多賀城市　丸山隆氏　（元多賀城市役所 職員）
宮城県 仙台市　加藤恵子氏（みやぎ民話の会 会員）
宮城県 角田市　島津信子氏（みやぎ民話の会 会員）
福島県 白河市　小磯厚子氏（NPO法人しらかわ市民活動支援会 おひさまひろば 副代表）

17：00　閉会